

Citation: Coulthard P, Esposito M, Worthington HV, Jokstad A. Interventions for replacing missing teeth: preprosthetic surgery versus dental implants. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2002, Issue 4. Art. No.: CD003604. DOI: 10. 1002/14651858. CD003604
CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 9 July 2002
Clib issue No.; N/U: 2008 issue 1; -

背景: 補綴前外科処置とは、通常の可撤性義歯の維持を獲得するために、口腔内の解剖学的環境を整える外科手技である。また、オッセオインテグレートッドインプラントは、義歯の維持を改善できる治療法のひとつである。その義歯は、顎骨に埋入されたインプラント体と特別な維持装置で連結できる。

目的: 補綴前外科処置(PPS)を行った通常の補綴物と補綴前外科処置が受け入れられなかった患者に対するインプラント維持の補綴物(IRO)の間に、成功(患者の満足度や罹病率)と費用対効果に差がないという帰無仮説を検討すること。

検索戦略: 本レビューでは、Cochrane Oral Health Group(OHG) Specialised Register, Cochrane Controlled Trials Register, MEDLINE, EMBASEを検索した。さらに、55のインプラント関連会社にコンタクトをとり、また、ハンドサーチした雑誌以外の総説論文の参考文献をチェックした。さらに個人的な参考文献も調べた。

選択基準: 義歯の維持を改善するために行われた補綴前外科処置とインプラント維持の義歯との比較を扱ったランダム化比較試験。

データ収集と分析: データは、2名のレビューア(HW, PC)が2回、別々に抽出した。ランダム化や追跡不能例の扱いの詳細を得るために著者にコンタクトを取り、各試験の質的評価を行った(ME, PC)。Cochrane OHGの統計ガイドラインに沿って解析を行った。

主な結果: 60名の被験者を扱った1つの試験が今回のレビューの選択基準を満たした。この内容は、4つの文献で報告されていた。除外された試験はなかった。IROグループの患者満足度スコアの平均は、1年後(WMD=-0.66, 95%CI: -1.28 to -0.04)においても、5年後(WMD=-0.90, 95%CI: -1.74, -0.06)においても、PPSグループのそれよりも統計学的に有意に高かった。下唇やオトガイの感覚の変化を1年後と5年後で測定した。その結果、どちらの時点においても統計的有意差を認めなかった。そして、5年後に感覚が変化した患者はいなかった。

レビューアの結論: エビデンスとしては弱いだが、60名を対象とした1つのランダム化比較試験から、一般的に補綴前外科処置を行った上で通常の義歯を作成する方法は、インプラント維持の義歯よりも患者に十分な満足を与えられないという結果が得られた。補綴前外科処置やインプラント維持の義歯の成功や費用対効果を比較するには、研究デザインの質をさらに高めた試験が必要である。この様な試験は、CONSORTガイドラインに従って報告されるべきである。しかし最近では、補綴前外科処置は時代遅れの治療であると考えられているため、必要な場合にはほとんどのケースで口腔インプラント治療が行われるようになり、この話題に関する新しいランダム化比較試験は計画されないと思われる。

(翻訳 荒川 光・監訳 窪木拓男; JCOHR)
翻訳公開日: 08年4月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。

